

セト研第 16 回(函館)大会に寄せて

日本海セトロジー研究会第 16 回大会を念願の北海道で開催するにあたり、お世話くださいました実行委員会（委員長：松石隆，委員：宇仁義和・蛇沼俊二・水島未記）ならびに北海道大学松石研究室・鯨類研究会の皆様，補助金を交付して下さった函館市と金沢医科大学，公開講演会をご後援くださった函館市，函館市教育委員会，北海道新聞函館支社，函館新聞社，朝日新聞北海道支社，日本経済新聞函館支社，毎日新聞北海道支社，読売新聞函館支局，FMいるか，NHK函館放送局，函館国際水産・海洋都市構想推進協議会，財団法人函館市文化・スポーツ振興財団，北海道大学大学院水産科学研究院に厚く御礼申し上げます。

公開講演会で「日本周辺のコククジラの現状」と題して特別講演をしていただくロバート・ブラウネル博士は，セト研の山田格漂着専門委員長を介して今回お招きすることになりました。鯨類学の世界で重要なトピックスのひとつとなっているコククジラについてのご講演を今回拝聴する機会に恵まれ，まことに幸いに存じます。また，これに先立つ特別セッションでは，今年 2 月に羅臼町相泊に集団座礁したシャチをテーマに 4 人の方々が話します。時宜を得たご講演に大いに期待を寄せるものです。

さて，セト研大会は第 9 回目に九州福岡市で開催されたのを皮切りに，開催地を発祥地の北陸三県(福井・石川・富山)・新潟県に限らず全国に広げ，第 13 回は東京，第 14 回は鳥取市で開催，そして今回の第 16 回大会は函館市で開催することになりました。これは，本会がフィールドの中心を日本海におきながらも全国的に活動を展開してきたことの表れです。この実態に合わせて，「日本海セトロジー研究会」を「日本セトロジー研究会」に改称するとともに，各地に支部をおくことができるようにする，という議案を今大会に伴う総会に提出いたします。

私は平成 9 年度総会（1997）で山田致知初代表，児玉前代表のあとを受けて第三代の代表に就任しました。就任前，役員の間では 50 歳代の会員が代表になるのがよいだらうという意見が有力でしたので，私が候補として推薦されたという経緯がございます。4 期 8 年間務めた今年 4 月にちょうど還暦を迎えましたので，今総会では 50 歳代の会員を第四代の代表に推薦してご承認を得たいと存じます。

今回の函館大会がセト研の新たな発展の契機となりますように，皆様方のいっそうのご協力をお願い申し上げます。

平成 17 年 6 月 18 日

日本海セトロジー研究会代表

金沢医科大学人間科学教授 平 口 哲 夫